

平成25年度 各園の取り組みと振り返り
(成果と課題)



エピソード記録

(指導講師：大阪総合保育大学大学院 教授 大方美香 先生)

永福保育園

①学んだこと (今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど)

エピソードを記録することで、保育の可視化を行う方法を学んだ。
実際に全職員が行事などについて、2回程度保育のエピソード記録を取ってみた。

②保育の成果 (保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど)

「園の光」(保護者へ毎月の広報)で「各クラスの様子」としてコラムを書いているが、クラス全体の雰囲気をお知らせするより、実際の言葉や情景を表現することにより理解いただきやすい場合もあった。

③課題 (研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと)

園だけでエピソードを記載することが可視化につながるともいえるが、さらに、職員間でエピソード記録を読み合わせて、保育の内容や重要な点を感じるレベルを向上させかつ共有できる環境を作るには、まだまだ時間がかかると感じている。

④今後に向けて (③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど)

職員一人一人の研修が必要であることはもとより、職員間の話し合いの場を増やすところから、職場全体として保育を見る力の向上を図っていく必要があると思う。

園内でのカンファレンス

(永福) 保育園

大方先生コメント

平成25年 5月 18日(土) 5歳児
 タイトル名(どっちが早い?)

春の親子行事で神崎へ行った帰り道。電車に乗る子どもと保護者、保育士は、KTの駅に向かって歩いていました。

親子行事に車で参加していたRくんのお父さんが、Rくんの姉を乗せて自動車での横を通り過ぎました。

Rくん：「あ、お父さんの車や！」

Tくん：「いいいなー乗車で。」

Rくん：「お父さんは先に西舞鶴駅について待つといてもらわなあかんのや。」

私：「一緒に西舞鶴駅から帰るんやね。もうすぐ電車が来るね。どっちが先につくのかな。」

Rくん：「お父さんの車速いから先や。」

Tくん：「このまえ、よーいドンしたときお父さんめっちゃ速かったもんな。」

その後、いろいろな意見が続きます。

Rくん：「でも、道には信号があるし。」

Tくん：「あ、線路にも信号みたいのがある。電車も止まるやん。」

Rくん：「そうや、駅にも止まるな。」

Tくん：「来る時3つぐらい駅があつたしな。」

Rくん：「やっぱりお父さん勝つやんな。楽しみや。」と予想の結論が出ました。

子どもの気付き、育ち

親子遠足でたくさん楽しんだあとの疲れた帰り道で、お父さんの車と自分たちが乗る電車の競争を予想した話。

お父さんが早い理由、電車が遅くなる理由を会話の中で楽しみながら一生懸命考えている。

強いお父さんが、勝利することを期待しながらも、自分たちがのる電車との競争にわくわくしている。

素朴な感想であるが、反論するでもなく仲良しの会話につながっていることから、二人の日頃仲良く遊んでいるのが伺える。

お父さんの当日の役割を理解している。(親子行事についてお母さん含め家族で話している様子)

保育者が子どもの目線で共感して、期待を持たせる発言を行っている。短くて的確。「どっちが」という問いかけから子どもの想像を広げている。

車が速いのかとかけこが速いのかと一部混同しているようでもあるが、お互いには一定納得していて、速いぞいとお父さんイメージを共有している。

声かけ一つで見守ることで、子ども達からいろいろな意見が出てきた。

線路に信号、道に信号など比較する事項をそれぞれ経験と記憶から探し出して、相手の意見にも耳を傾けながら、お互いに結論を探そうと協働している。

お父さんが勝つ期待半分、自分たちが早くなるかもという競争が「楽しみ」になって、親子行事の思い出の一つとなつてきている。

子ども達の予想に、保育士が結論を出さずにおいた。

経験したことからしっかりと科学的な思考の初期段階が育つと言える、5歳児としての成長が伺える。

保育士のひとこととかがきつかけとなり、その後「速さ比べ」になつている。
 大人の声かけは重要。

※5歳児という年齢は能力差がはつきりしてくる。「できる・できない」「早い、遅い」という価値観だけにとらわれないうように気をつけなくてはいけない。
 最終的な結果や勝敗ではなく、そこへいたるまでのプロセスを大切にすること。

いくら早くても信号があれば止まることや、駅に止まることで時間がかかってしまうことなど、様々な状況を考えられている。
 「どっちが早い」ことよりも、その過程に考えを巡らしていることがわかる。5歳児としての言語力、思考力が育っている。

<5歳児の保育、接続カリキュラム>
 6歳になる子どもが大半を占めるようになった年長児クラスは思考力が高まる時期である。小学校へつながる。
 ※早期教育ではなく生活の中で体験として知っておくことが大事。
 ※ひとりの体験をクラスへ広げ体験を共有することが大事。



さくら保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

Aコースのエピソード記録を学びました。普段の何気ない子どもたちの言動や行動に対し、見過ごしていた部分がありましたが意識して耳を傾けることにより、新しい発見があり改めて子どもたちの心身の発達や言葉がけの大切さに気がつきました。
また、それを文章化することへの難しさを感じました。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

子どもたちの普段の言葉・動きを意識するようになりました。これはエピソードに書けるな、などといふ口に出してしまいます。
年齢による発達を理解していくようになりました。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

研修に参加できた保育士と、できなかった保育士との理解度のギャップが大きくなってしまいました。日程が行事と重なる部分もあり、難しいところがありました。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

3コースに分かれたことで他のコースが分かりづらく統一感が無く感じられたので、ある程度皆さんが共有できる統一された研修会にして頂きたいです。

～参加者より～
子どもの育ち・発達はどこか？
(ココから下の記述)

↓

どんな思いで持ってきたのかはわからないが、保育士が転がしたところと『サッカー』に結びついた。

気持ちの変化があった。

楽しい経験だったからもう一度持ってきた。

さっきの場所の方がよく転がることを知った。

「危ない」と止めてしまいたいような場面を止めずに見守ることができていた。

大方先生コメント

↑

きつかけ先生へのプレゼンだったのか？「好きだよ」というメッセージなのか？
→気持ちも受け止める①保育士の「ありがたい」という言葉を入れる。
②向で転がしたのか⇒手で

サッカーをイメージし、見立てあそびをしたことで体験したことを思い出し、再現した。
3歳の発達…体験を別のもので見立てる。

3歳児ではすごい言語力。

この言葉がけであそびが広がった。

Y君は「サッカー」と言っているが興味を持っていたので、「シュート」と言う言葉でもイメージでき、わかった。

③Y 「あれー??」 小さい言葉も書いていく。不思議に感じたのかも？速いに気付いたのかも？「少し物足りない」は保育士の思いこみかもしれない。

この言葉を言わずに「なんでかな？不思議やね。」などと投げかけてみることで、子どもの思考力が育つ。4・5歳なら投げかけをせずにあえて待つてみた方がよい。

全員が石でサッカーをすると危ないので、ボールに移行していくとよい。(1対1だからよかった)

他の子は、Y君と保育士のあそびの中に入ってきたのか？

Y君は石を集めて遊ぶのが好き。いつも保育士に持って来てくれる。

平成25年 9月13日(金) 3歳児 (さくら) 保育園

タイトル名(石ころサッカー)

園庭で自由あそびをしている時の事、虫や、石や、土などの自然が大好きなY君が

①少し大きめの丸い石を持ってきた。②私がその石を転がすのを見て

「うわ！転がった!!!」

と嬉しそうにY君。もう一度Y君のところへ石を転がすと、何か思いついたように石を私の方へ蹴り返した。

Y 「なんかサッカーみたいやなあ。」

私 「ほんまやな。もつと、シュートつてする?」

Y 「うん！もつとも一つと飛ばす!!!」

その後再び私のところへ

Y 「もういつかいサッカーしよ。」

と誘いにきてくれたY君。

しかし、土の上では先程のように勢いよく転がらず、③少し物足りない様子。

私 「あんまり転がらんかったなあ。土の上からかな?」

Y 「そっか！じゃあさっきの場所でしたら?」

そう言ってまた楽しそうに石を転がして遊んでいた。

その石をどうするか、投げかけてもよかった。終わり方も大事。「元に戻そうか?」「先生も戻っていい?」など

何度かしたら、満足して石を置いたまま他のあそびに行った。

Y君はその後どうしたのか?を知りたい。

子どもの気付き、育ち

- ・土の上とコンクリートの上では、石の転がる勢いが違ったことに気付いた。
- ・他の石でも転がるか試してみたが、丸まった石の方が転がりやすいということをし、保育者と一緒に発見することができた。
- ・何度か繰り返すうちに、真つすぐに蹴ることを意識するようになり、上手にできた満足気な表情をしていた。

<大方先生総評>
石ころという環境でY君が育っている。Y君とのやりとりをクラスの子に言葉で伝えることで、Y君も振り返ることができる。また、クラス内でのあそびが広がったり、深まったりする。※子どもの気付きを集団の中で伝える。きつかけをつなげるにより、遊びが深まっていく。



相愛保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

◎その時の子どもの様子が思い浮かぶような記録の仕方

◎一人ひとりの子のつぶやきを聞く大切さ、同じ遊びでも日々変化があり、その中で子ども達が会話をしながら遊びを発展させているという事に気づく大切さを学びました。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

◎普段 全体に目を向けているつもりだが、元気な子に目がいくことが多い事に気づく事ができ、おとなしい子にも声掛けすることが多くなった。

◎子どもの発言・姿に今まで以上に目を向けるようになった。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

いつも話題になる子は元気な子、同じ子になってしまうので、全体に目を向けるようにしたい。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

◎子どもの活動から楽しい遊びが広がっていく様な働きかけをしていきたい。

◎異年齢での会話や関わりも記録として残していきたい。

園内でのカンファレンス

《良いと感じたこと》

- 子ども達と養殖場の人の言葉のやりとりが細かに書かれており、子ども達の不思議や知りたい気持ちから読み取ることができた。
- 普段の日常生活で味わえないうい経験と、子ども達の興味や関心、また、そこから疑問等の広がりを感ずることができた。
- 子ども達の疑問に思ったことや考えたこと、納得したこと等、養殖場の方とのやりとりがよくわかった。
- 養殖場の方と子ども達のやりとりがわかりやすく書いてあった。子ども達の素朴な質問にもわかりやすく答えてくれている様子も伝わってきた。
- 普段なかなか行くことができない場にいるようなことを知る経験ができ、子ども達の関心や疑問に養殖場の方とのやりとりがよくわかった。

《もう少し知りたいこと》

- カキの貝殻を粉にした物を土に混ぜて栄養ある土を使って、園での実物や野菜づくりをしてみたい、漁運等で見えた魚やカキ等が給食のメニューに出てくると、もっと子ども達の経験したことがいきてくると感じた。
- 他の子ども達の様子や中には興味を示している言葉に聞き取れない子もいるのか？
- 会話だけでなく、子ども達の姿や表情、行動等も書かれています、よりその時の様子がわかりやすかったです。
- 質問した子のその後の反応、言葉、様子も気になりました。
- （養殖場見学）行く前に子ども達へのはたらきかけはどのようだったのか？
- 内容がわかりやすかったのか？
- 子ども達の姿や行動も書かれています、よりその時の様子がわかりやすかったです。
- 子ども達の疑問に思ったことや考えたこと、納得したこと等、養殖場の方とのやりとりがよくわかった。

相愛

保育園

平成25年 11 月 14 日 (木)	5 歳児
タイトル名 (牡蠣養殖場の見学)	
<p>牡蠣の養殖場見学。牡蠣をどのように育てているのか不思議そうな子ども達。実際に牡蠣を見るとき、スーパーで売られても身とは違い殻つきの牡蠣を見て</p> <p>A「みたことない」「食べたことない？」</p> <p>私「カキフライとか食べたことない？」</p> <p>A「カキフライは食べたことある。え？あれがこれなん？」</p> <p>B「ここに付いている殻つきの牡蠣に興味津々で、興味深く観察していると発見もあり、養「これは、ホヤと言ったまま違う種類の貝なんやで。」</p> <p>C「エビもある。これは何の虫？」</p> <p>養「これは、牡蠣を食べてしまう虫なん。ほら空っぽで中身ないでしょ。(実際に牡蠣を開けてくださる) 太腸に弱いからしばらくこうやって置いておくで腐らせて死んでしまうん。」</p> <p>D「ほんまや、動かんようになつた。」</p> <p>養「(むき身になっていた牡蠣を指して) ここにある牡蠣はまだ小さいから中身も黒い所があるでしょ。これが真っ白になつたら美味くなるんよ。お正月くらいが美味しいかな。」</p> <p>E「へー。これも黒いもんなん。」</p> <p>F「白くならたらおいしいんかあ。じゃあ、まだ赤ちゃんなんかな。」</p> <p>と、養殖場ならではの食べ頃の時期の豆知識も学ぶことができた。</p> <p>また、牡蠣の貝殻はどうするの？と言う疑問に、別の倉庫に置いてあるペルトコンベアーを見せてもらい</p> <p>養「貝殻は、この機械を使って粉々にして何かに変身するのだけど、何でしょう？」</p> <p>という質問に対して</p> <p>G「トレットペーパー？」「動物のエサに混ぜる？」「魚べる？」と、自分たちで考えて答える。</p> <p>養「これは、土に混ぜるとすぐ栄養のある土になって、果物や野菜が美味しくなるので、近くの農家の人たちが取りにきます。」</p> <p>と、自分たちの考えの意見を述べ、実際の使い道をしることで新しい気づきを得ることができた。また養殖場の仕事は牡蠣を育てるだけでなく、近所の方々のつながりもあることがわかった。</p> <p>その後、実際にお店に陳列されている様子を見学するために、とれとれセンターへと向かう。</p> <p>I「あ！牡蠣見つけた。ここは大きい中では白いんかな？」</p> <p>J「この間漁運におつた魚もおお。」</p> <p>私「お正月くらいが美味しいって言うところって、なんであるんかな？」</p> <p>K「運うとこでもとれるんかな？」</p> <p>と、以前見学した漁運の様子も思い出しながら、陳列されているお店の様子を見てまわっていた。</p>	<p>子どもの気づき、育ち</p> <p>実際に普段口にしている食材が、スーパーなどでは売られていない形とは違う事を見学することができた。</p> <p>また、実際に商品として陳列している様子も見学することで、自分たちが食べるまでに、たくさんの人達が関わっているという事も知ることができた。</p> <p>こういった実経験を通して、紐芝居などだけでは感じにくかった、命をいただくありがたさや、たくさんの人への感謝の気持ちを心に残すことが出来たのではないかなと思う。</p> <p>「運う場所でもとれるのかな？」という疑問を抱いていたので、地元以外の漁港ではどんなものが捕れるのかな？ということをもっと図鑑などでも調べたいと思う。</p>

大方先生コメント

5歳だから、早たこと、感じたことを言葉で表現できる。また、説明されたことに對してきちんと返している。

牡蠣が嫌いな子もいるだろう。牡蠣に興味をもって発言している子の、興味が高まれば高まるほど、嫌いな子はいなくなる。そこを担任は落とさないようにしなければならぬ。そういう子が、どのような様子だったか、その子たちをどうしていかか考えることが必要。

A～Kはよくわかってる子、興味のある子。他の子はイメージできていないかも？

5歳の体験に差がある。理解力にも差がある。

知っている子から、知らない子、興味の持てない子に、上手く伝えてもらって、みんなに広げていく。(陳外感を相手にも伝えることでもより理解も深まる。

※担任はみんなが知ったように感じてしまうので、気を付ける必要がある。

「トレットペーパー？」などと、リサイクルについても意外と知っている。

興味を持っていて、理解しようとしている。

タンポポハウス

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎可視化することで 意識して子どもの姿 様子を見ようとする気持ちが強くなりました。
- ◎カンファレンスをする中で 自分では気づかなかった子どもの姿を他の保育士から教えられることもあり子どもの見方も広がりが見えたようにおもった。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

- ◎可視化した文章を見ることで 子どもの姿を共有することができた。
- ◎子どもの行動の奥にある子どもの心の動きに注意をはらい読みとろうとするようになった。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎日々の保育をしながら研修を受ける機会が多く 十分に自分のものにして子どもにまた保育にいかしていく事の難しさ 時間のなさを感じるが多かったです。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎研修を受ける事で色々な気づきができ、子どもたちにとって今何が大切かを職員間で共有し話し合う時間を作る工夫を考えていきたい。

～参加者より～
子どもの育ち・発達はどこか？
(ココから下の記述)

Sくんは支援の必要な子ども

(タンポポハウス)

平成25年 9月 13日 (金) タンポポハウス 3歳児
タイトル名 「食べれたよ」
<p>給食時間のこと。 4月の頃は、<u>食べられる食材</u>が、白ご飯、豆腐、豆と限られていたSくん。5月頃から、<u>食べられるもの</u>が増えてきて、完食できる日が続いてきた。今日のメニューの煮魚は、以前カレー味のフライにしてもらうと<u>食べられた</u>ので、同じようにしてもらおう。</p> <p>いつもは、白ご飯から<u>食べる</u>Sくんだが、 S 「これは何？」と魚のフライを指さす。 私 「魚のフライにしてくれちゃったよ。カレーの味やで。おいしそうやなあ。」 魚のフライから口にして<u>食べ切る。</u> 私 「魚のフライ全部<u>食べた</u>ん？おいしかった？」 S 「あつかったけど、おいしかったよ。」と、<u>食べ切ったお皿</u>を見せる。 他のお皿も全部<u>食べ切り</u>！ S 「<u>食べたよ。</u>」とすべてのお皿を順番に見せる。 私 「お血ピカピカになったやん。全部<u>食べれた</u>やん！」 給食の先生にも、魚のフライおいしかったです。ごちそうさまでしたって、言ってきたら？」 S 「先に(片付ける前に)言ってくる！」と片付けようとしていた食器をそのまま机に置いて、給食室に向かう。私は後ろをついていくが、少し離れた所から見守る。 給食員「もう<u>食べ終わ</u>ったん？」 S 「魚のフライおいしかったです。ごちそうさまでした。」 Sくんに近づき、 私 「ごちそうさまでしたって言えたん？えらいやん！」と頭をなでる。 部屋に戻り、「先生のそばをしばらくウロウロするSくん。 I先生「<u>食べられたん</u>？」と聞かれ、笑ってうなづく。 まだ、<u>食べ終わ</u>っていない双子の兄のそばに寄り、 S 「Cはまだ？」と笑いながら聞いていた。</p>
子どもの気付き、育ち
<p>全部食べられたことをうれしさと感じるようになったこと、話すことが苦手だったが、伝えたい！聞いてもらいたいという思いを言葉や行動で伝えられたという成長が見られた。 また、周りの人に自分からかわりをもととするとする姿が見られた。</p>

興味・関心

「あつい」ことに気付き、伝えたいと感じた。

伝えたい気持ち

感謝の気持ち

認められたい気持ち

自信・自慢

大方先生コメント



食べる記述が12回出てくる…
「食べる」ことを意識した保育=食べる、食べ切る、食べられたという結果を重視しすぎているのではないかと？
(幼児教育における)食育とは…食を通して何を学んだか？
どれだけ興味や関心が持てるかが大切である。

「魚」とわからなかったかも？
せつかく聞いてくれたチャンスなので、他の食材に質問をふってみて、興味を持たせる、メニューに対するイメージを広げる。

食べ切ることにこだわるとはではなく、「おいしかった」ことを広げる～への関心を深めるチャンス。

食べ切ることを重視しすぎると、競い合うことを強調してしまう危険がある。
食育とはそういうものではない。
食べられたことはすばらしいことだが、おいしく食べられたとか、残した子でも「おいしくて幸せね」とか言ってあげる。
Oちゃんはあついと気付いたとか言っていてあげると、
保護者にも、こんなことにも気付いたよ、こんなことに興味があったよ、というところを伝える。

<大方先生 総評>

ほんの小さな保育の一場面にすぎないが、この中から本質(課題)が見えてくる。その中味は、記録(この場面)をどう読み取るかによって大きく変わる。正解はないにしても書くだけで終わらず、もう一度振り返り、深く読み込む。つまり、気付く・発見することが大事。
この食事場面は、保育の中でよくあること。食べ切ることに結果を重視しすぎると、本来大切にすべきことが見えなくなり、子どもの中に結果によって優劣をつけることを植え付けてしまいかねないので、気をつける必要がある。



平保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

エピソード記録を通じ、子どもの思いや、行動など改めて良く見る機会となり、また、自分自身の関わり方について見直す事ができ、よかった。

子ども達の見方がこんなにも違い、様々な角度から見れるんだという事に気づいた。

子ども達のなにげない会話の大切さ。子どもの言動が気づきや、成長であり、それに気づく保育者の能力も大切であり、必要だ。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

子ども同士の会話に耳を傾けるようになった。

自由遊びでの子どもの様子や、子ども同士の関わりを注意して観察するようになった。

保育者の声掛けで全てが変わる（良い悪い含め）事を実感した。

子ども自身が考えられるよう見守り、声かけを工夫するようになった。

意識して関わる事で、子どもの新たな一面を発見する事ができた。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

どうしても、目立つ子ばかりを注目してしまうので、大人しい子にはなかなか目を向けてあげられていなかった。

「いつも」「また」という見方、考え方になってしまうので改善していく。

その場にあった声掛けを見直す。

自分の保育観にしばられず、研修や園内で話し合い、子どもの可能性を広げていく。

保育室が狭く、コーナー遊びが難しい。環境をもっと工夫する。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

記録をとる事で自分の保育も見直すきっかけにし一人一人の行動に注目していけるようにする。

子ども達一人一人同じ視点に立ちながら関わっていく。

子ども同士で考えを導き合えるよう声掛けを工夫する。（見守る事の大切さ）

自分の心のゆとりを大切にする。決めつけてしまわず、柔軟な考えで保育をする。

保育室の環境整備、異年齢保育での遊びを工夫していく。



園内でのカンファレンス

<子どもの様子>

- ・Kが、友達に対して「貸してあげなよ」と声が掛けられる事がすごい。
- ・NとUの様子がわからない。
- ・Sは何か言っていないか？
- ・NとUは「欲しい」という意見が通り、SとCだけが我慢をする形になってしまっているような雰囲気が見られる。

<保育者の関わり・声掛け>

- ・特定の子に貸すよう促すのではなく、一人一人の個数を伝える事で保育者が見守り、子ども連に考える時間を与えている。
- ・Cに対する保育者のフォローが良かった。
- ・貸さなかった事に対して、批判しなかった事が良かった。
- ・全員に優しく伝えるチャンスが与えられている。
- ・事実のみを伝え、保育者の感情を入れずに言葉掛けをした。
- ・Sがブロックを貸した時、Cにも見えるように褒める事によってCの貸してあげるという意欲に繋がったと思う。
- ・「ありがとう」の感謝の気持ちを伝えたのが良かった。
- ・Uちゃんが訴えてきた時、やりとりが同じなので、次は子どもと一緒に教えても良かった。
- ・貸した側と貸してもらった側の当事者の言葉のやり取りを奪ってしまった。
- ・個数を言葉で伝えるのではなく、ブロックを積み上げるなどし、視覚でわかるようにしても良い。
- ・子ども同士で「ありがとう」が言える声掛けがあっても良い。
- ・個数の大きさを動物に例えて表現するとわかりやすいのではないかと。例：多い…ぞうさん、少ない…アリスさん
- ・全体を見て判断し、言葉掛けをしてKに対しての保育者の言葉掛けがなかった。
- ・個数を伝える事で子ども達が一緒に考える事ができた。

<環境>

- ・ブロックの数を増やし、個々が満たされるような工夫が必要。

<記録者の感想>

- ・ブロックをもらったからといって満足していないか？
- ・同じ数だから良いのではない。その子なりの思いがあつての個数だったのかも。保育者の勝手な思いで行動してしまつたかもしれない。
- ・まずは、気持ちをたずねてあげることが大切。
- ・違う視点からの意見が聞けた。
- ・見逃していた子どもの様子に気づく事ができた。

大方先生コメント

・何か作ろうとしても、数が足りないのはよくない。
 ・たくさん子どもでブロックだけで遊ぼうとしても、取り合いになり、けんかになる。
 ・いろいろな遊びをコーナーごとに準備すると分散するのでトラブルが少なくなる。それでも、トラブルになったら…ひとりでずつつまごに入れて分けておいてもよい。(個々に分ける)

・美談になっている。…大人にほめてもらうためにしようになる。(大人の顔色を見るようになる)
 ・2歳児はまだ、黙々と自分で何かを作ることが大切。
 ・自分のもので当たり前。

<2歳児の保育>

- ・子どもにとって保育園は、カルチャーショック…家では自分のもの。(それで普通)
- ・「貸してあげて！」「みんなのもの！」
- ・「貸してあげること」や「譲ること」が「優しい」のではなく、「みんなが満足にならないか？本来は、自分が満足して初めて、譲ったり貸したりできるようになる。2歳児という年齢を考えると、まだまだ「自分が」中心でよい。
- ・ブロックも少しは作れない。じっくり遊ぶには、教が必要。
- ・2歳は2以上の数はわからない。6歳でも0の概念はわからない。
- ※年齢ごとの発達をよく知って保育をすることが重要。

平成25年 11月14日(木) 2歳児	(平)	保育園
タイトル名 ()	ブロックあそび	
月齢→C…3歳3か月/N…3歳4か月/K…3歳7か月/S…3歳7か月/U…3歳1か月		
Cはクラスの中で、自立つ存在である。遊びの中心になる事も多いが、自分の思い通りにならないと力づくで解決してしまう事も多い。 自由遊びの時間、ブロック遊びをする。特に赤色のブロックが人気で、この日よりも多くの赤いブロックを取ろうとする様子が見られた。するとNが、(N)「赤色のブロックない〜。」と、訴えてきた。 (保)「本当だね。Nちゃん1個も持っていないね。」 (K)「Sくんと、Cくんいっぱいもつとる。かしてあげなよ。」 しかし、二人とも貸そうとしない。 (保)「Sくんは8個、Cくんは12個、Nちゃんは0個だね。」 と、持っているブロックの個数を伝える。すると、Sくんが作っていた自分のブロックを解体して、赤いブロックを4つNちゃんに貸してあげた。 (保)「Sくん、わざわざ壊してまで貸してくれたんだね。ありがとう。」 と保育者が言うのと、Sくんは照れ臭そうにしていた。Cくんはこのやり取りを見ていたが、貸そうとはしなかった。すると次はUちゃんも (U)「ブロックかしてほしい〜。」 と、訴えてきた。 (K)「Cくんかしてあげな。」 (保)「Cくんは12個、Sくんは4個、Nちゃんも4個、Uちゃんは0個だね。」 と、再度個数を伝えた。するとCくんが5個、Uちゃんにブロックを渡した。 (保)「5個も貸してくれたんだね。優しいね。」 と言うと、Cくんはとて嬉しそうにしていた。		
	子どもの気づき、育ち	
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを知り、互いに楽しく遊ぶにはどうすれば良いのか考える力。 ・物の数の多い少ないを理解する力。 	



なかすじ保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

◎記録を書いたり読んだりすることにより、その子の育ちに気づいたり、子どもの思いを知り、普段の保育を見直すきっかけとなった。

◎子どもの言動一つを見ても、保育士により声の掛け方や見方に違いがあり、その声掛けにより、子どもの育ちも違ってくることを、改めて感じた。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

◎園内でカンファレンスすることにより、自分が気づかなかった子どもの思いや成長を、他の先生から教えられたり、他の先生たちの声掛けや接し方を参考にして、自分自身の関わりや援助の仕方を意識するようになった。

◎記録を書くとき、「がんばっていた」や「楽しそうであった」などで表現しがちであったが、子どもの声を聞くことにより、子どもの心情をより深く考え、逆に記録が書きやすくなった面もみられる。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

◎子どもの気付きや発見が、保育士の声掛けひとつで変わってしまい、それが子どもの記憶に残ってしまうので、一つ一つの言葉を大切に、責任を持って子どもと向き合っていかななくてはいけないと感じた。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

◎記録を読みあうことにより、個々の子どもの課題や、クラスの中での改善すべき点にも気づくことが出来、その課題にどう向き合っていくか考えながら保育をしていかななくてはいけないと感じた。

～参加者より～
子どもの育ち・発達はどこか？
(ココから下の記述)

言い方で形が決まる。

言葉が変わっているが、3人の中ではつながっている。

(なかすじ) 保育園

平成25年 9 月 19 日 (木) 2 歳児

タイトル名 (月見だんご作り)

お月見だんご作りの時間のことである。
「こうやって手でコロコロ丸めるんやで。」
と、子ども達に伝え、「コロコロ。」と声に出しながら
白い白玉粉を練ったものを丸めていた。
MちゃんとH君も声を出して丸めてはいるものもの
だんだんおもしろくなって手で押して平らにしたり
伸ばしたりしていた。
時間がたち、形も丸くなってきた頃に、Mちゃんが
「卵の赤ちゃんみたい。」
と言った。
「ほんとや。卵みたいやなあ。」
と言うとH君が
「赤ちゃんおるんやでえ。」
と笑った。
初めは丸めるのではなく、力を入れて形を変化させていた2人も
『卵』や『赤ちゃん』を連想した時からは
手で優しく、卵をイメージして丸めているように見えた。
2人の表情もとても穏やかであった。

子どもの気付き、育ち

- ・粘土あそびや泥だんご作りを日頃から取り組んでいるのもあり、4月から比べれば、手で丸くしたり指先で自分の思いのままに、変形させるという事ができるようになり、成長を感じた。
- ・見たものや感じたものをイメージする力を身につけていきたい。

大方先生コメント

「丸める。」と言う言葉だけでは2歳児にはわかりにくい。
「コロコロ。」と言ったことでわかりやすくなった。
擬音の方がわかりやすい 模倣しやすい。

『卵=小さい赤ちゃん』と連想した。

つじまが合うようになりイメージがふくらむ。
やりとりする力(会話)が育ってきている。

保育士の声かけを書くことが大切。
子どもの言葉を保育士が反復することが大事→ことばを獲得していく、イメージする力がつく、会話する力につながる。

手の操作性が育っていないと丸めることは難しい。
食べ物(白玉粉)なので、感触を楽しみずきてもいけない。
粘土でしたら感触が味わる。
他の素材でしたら子どもの反応はどうなるか？
全員が丸める事ができたのか考察するとよい。

気持ち言語力が育っている。

2歳児の世界のおもしろさ。(アニメイズム=概念が育っていないから体験を演出していく)
・人：関係のない中での言葉のやりとりがイメージを表現して見立てあそびをするようになり、さらにこつこつあそびへと発展していく。
・見立てあそびからこつこつあそびへは、社会性が必要
・2歳は、身近な体験からやりとりができたり、言葉が出てくる。
気持ち言葉を言葉に変えていくことが大切。



東乳児保育所

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎可視化の大切さ。
- ◎発達をおさえて保育（声かけ、関わり、環境）していくことの大切さ。
- ◎カンファレンスを行うことで保育士にたくさんの気づきがあり、保育を客観的に振り返る機会になった。
- ◎子どもに気づきを与える保育の大切さ、その気づきを保育の中で膨らませていくことの大切さを学んだ。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

- ◎子どもの発達・興味等を意識して関わるようになった。
- ◎言葉がけをする時、
 - ・発達をおさえて、一人ひとりに合わせるように心がけるようになった。
 - ・子どもの反応など考えて、子どもにも考えさせるような言葉がけをするように心がけた。
 - ・この声かけは・・・関わりは・・・この子の発達に合っているのかな・・・？と考えることが増えた。
- ◎一人ひとりの遊びに目を向けたり、言葉に耳を傾けたり思いに気付いたりするようになり、その子に寄り添うことの大切さを感じた。
- ◎子どもが主体的に遊べるように、日々の保育・環境作りを工夫するようになった。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎子どもたちが楽しく遊びこめる環境が、必要だと思う。
- ◎その場所に行けばいつでも出来る・・・という遊びに対する見通しが大切だと思うので、今後工夫していく必要がある。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎どんな遊びのコーナーを作るのか？ 何が必要なのか？ 場所はどこが最適なのか？ などみんなで話し合い、安全に安心して遊びこめる環境を作っていくこと。
- ◎職員の意識統一を大切にする。
 - ・保育の方向性を保育園全体（全職員）で統一して保育していく。
 - ・全職員間が相互理解する。



園内でのカンファレンス

どう思うで出かけたのか…ということも書いておくよよいのでは…。

誰が言ったのかわかるかとよいのでは…何かあったのか？

出かける前にもみじの歌を歌っていたから印象的になったのかも…。

・なんで知ったとたん？と尋ねたことはよかったです思う。

・他の葉っぱも知らせてあげられたらよかったです…。(いろんな形、色など)

他児にもバナナみたいな葉っぱを見つけたことを広げてよかったです。

保育士が今にも食べそうに見えたのか？

この後の様子があるとよかったです。

＜カンファレンスを終えて～記入者～＞
どこを中心に書きたいのかと考えた時に言葉のやりとりやその時の状況などを書くようにしているが、なかなか細かな点まで書けていないのが現状である。初めて読んだ人(知らない人)にもわかるように心をかけているが、まだまだ書けていない。

Tと1といっしょに歌を歌ってもよかったですかなと思っただ。

・他児に広げるといいう意味からも、その場で広げる時間や瞬間がなかったのも、その葉っぱを持ち帰り、改めてみんなに1の発見を知らせてもよかったですかなと思っただ。せっかくの1の発見をその場で終わらせてしまった。

・カンファレンスすると次からは子どもの言葉、つぶやきに対してすぐに言葉を返すのではなく子どもに問いかけたりする返しをしようと考えて言うようになった。

・2歳児ならではの「見立て」ができていて、遊びの中に見たで、つもり遊びをとりいれていけるといいなと感じた。

(東乳児保育所)

平成25年 11月18日(月) 2歳児
タイトル名(葉っぱ)
夕潮台公園へ出かけ、木の葉・葉っぱなどを拾って歩く。赤や黄、茶色になった葉っぱや、どんぐり、しいの実、まっぼつくりなどが落ちていて、子どもたちが、 「あつた～!!!」 と言いつながら拾っている。 もみじの木の下へ来ると赤や黄のもみじの葉っぱが落ちていて、Tが、 T「J」～赤い葉っぱ 黄色い葉っぱ 鬼さんこちら～J」と歌いながら私を見た。 私「ほんまやなあ。赤い葉っぱ、黄色い葉っぱはあるなあ。」と言うと、 T「もみじやで!!!」と言う。 私「なんで これもみじって知ったん?」 と聞くと、 T「そなんん知つとるわ!!!」と言う。そこへ1がやって来て、 1「ほら見て～ これバナナみたい!!!」 と細長い黄色い葉っぱを見せてくれた。よく見ると、茶色がポツポツと点になって模様になっていて、よく熟したバナナのようにだった。 私「ほんまやなあ～ おいしそう～!!!」 と言うと、 1「食べたらあかんで!!!葉っぱやで!!!」 と言ったので、1と顔を見あわせて笑った。 子どもの気付き、育ち
・もみじの葉っぱだと知っていたT。 ・うたと葉っぱが結びついた。もみじの歌をもみじの木の下の(赤や黄の葉っぱを見て)歌った。 ・葉っぱを見てバナナのようなだと気づき伝えられた！。

大方先生コメント

11月の月案を立てる時にも…
見立て遊びが始まるかな?イメージして保育する。
何のために散歩に行くのか?ねらいは?保育士の思いをもつて散歩に行く。
いつもと違う環境に出会って育つことがある。

Tは、色でなくもみじに反応。
赤い葉っぱ⇒赤ならわかる。形容詞は分かっているから、単語として理解している。…だからTはもみじと言った。

・葉っぱをバナナにみたてた→これを大切に。
・もみじを見てイメージすることが育っている。
・親へ→みたてられるようになった、育っている。
・子どものつぶやきをよく聞いてあげると言える。

※他の子はイメージできているか?

「食べたらあかんで」⇒1くんは認知力が育っている。

・Tと1だけでなく、他の子はどうか?次につなげる。
・葉っぱを見せておくことをとりにいれて保育につなげていく。子どもの言葉に材料がある。
・繰り返すことでイメージする力を育てる、広げる。
・新聞をちぎって「何に見える?」と遊んでもよい。

※育てたいことは何か?を考えると保育すると広がる。
どれだけ保育士が子どもの姿をイメージして保育ができるか?

＜みたてられる力⇒はっぱひろい>
形集め…葉、葉っぱ(大きい、小さい)
色集め…赤、黄、拾おう
名称…もみじ、いちよう
みたて…バナナみたい、かいじゅうみたい
感触…はっぱのカサカサする音(足で踏んだら?)



南乳児保育所

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎発達段階を把握したうえで、一人ひとりにあった援助、かかわり方をしていくことの大切さをエピソード記録から学んだ。
- ◎子どもの思いに寄り添って言葉がけをすると、遊びや行動が広がること。
- ◎職員間の共通理解、関係性それも環境を作る重要な要因であると気づいた。
- ◎保育士が「ねらい」をもつこと、育ててほしい力、願いをもって保育することが重要であると気付いた。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

- ◎言葉だけでなく、子どもの視線や行動を見るようになり、そこからどんなことを考えているんだろう？と考えるようになった。
- ◎より意識的に子どもの言葉を拾ったり、それをエピソード記録として残し、次はこんな風にしてみよう、こう関わったらよかったかな？など丁寧に振り返りをするようになってきた。
- ◎一人ひとりの行動には理由があり、その思いをくむことで子どもの見方が変わってきた。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎職員が同じように理解し、共通認識していくことの難しさや伝えることの難しさ。
- ◎振り返ったことが、次の保育に活かさきれていない。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎園内研修を通じて、どの職員も同じように理解できる場や機会をつくり、職員の意識改善をはかる。
- ◎園内研修でエピソード記録をカンファレンスし共有していく。記録を読みとる力をつけていくために発達について学び直し、年齢にあったねらいをもって保育をする。



～参加者より～
子どもの育ち・発達はどこか？
(ココから下の記述)



Y…2歳3か月
R…2歳
K…2歳5か月
S…2歳1か月

交代させようとしてしまう。

1歳児には難しそう…。

歌うことで楽しく順番が待っている。

(南乳児保育所)

平成25年 9月 11日(水) 1歳児
タイトル名(プランコか～わって!!)
<p>園庭のプランコに乗るRくんとYちゃん。そこへKくんと少し遅れてSくんがやって来た。K「か～わって。」とYちゃんに向かって言うが、Y「イ～ヤ～だ。」とかわってくれない。私「今乗っちゃったとこやから、もうちょっと待ってあげてくれる？」とKくんに言う。K「うん。」</p> <p>と言ってしばらくYちゃんの様子を見ている。私「そろそろかわってあげる？」とYちゃんにきくと、Y「イヤ～。」</p> <p>と言う。私はKくんのいる向かい側へ行くと私「じゃあ教えてみようかな。」</p> <p>と言って、私「1、2、3・・・おまけのおまけの汽車ポッポ～・・・か～わって。」</p> <p>と言うと、Yちゃんがニツと笑って歌に合わせて節をつけてY「い～や～だ♪」</p> <p>と言ったので、思わず私も笑って、私「あらま～残念。」</p> <p>と言ったが、Kくんに怒るかな？と思つてKくんの顔を見ると微笑んでK「おもしろいな～。」</p> <p>と言った。すると隣にいたSくんも人差し指を1本立てて、S「もっかい。」</p> <p>と、もう一回歌つて”とリクエストしたので、Kくんも同じように一緒に歌い、そのやりとりを3回ほど繰り返した。「い～や～だ。」とYちゃんが言つても笑つているKくんとSくん。</p> <p>Yちゃんはともかく、Kくん、Sくんもそのやりとりを楽しんでいるように見えた。そのやりとりの中ではYちゃんはかわれなかつたが、その後押す方に回り、Kくんを乗せていたYちゃんだった。</p>
子どもの気付き、育ち
<ul style="list-style-type: none"> ・ 順番を交代してもらえなくても怒らずに待っている。(順番を待てる場面が見られるようになった。) ・ 友だちや保育士と歌ったり、やりとりすること、一緒にいることを楽しいと思っている。

大方先生コメント

持ちあがりの子ども(保育経験のある)ばかりなので、トラブルが起らずにうまくいった。新入児がいるとまた違う反応になる。

・4人は「いっしょが楽しい」という発達の時期であり、順番を待つよりもやりとりを楽しんでいる。
・2歳8か月頃になると、自分のもの」という思いが強くなり、トラブルも増える。⇒交代や順番も伝えていく。
※見方やとらえ方を間違えないようにしないといけない。

<大方先生の講評>
2歳はまだ自我が出ていない。2歳8か月頃～3歳になり、自我「ほくの」になるとトラブルが発生する。遊びの中でよくある場面だが発達によってこちらのとらえ方も変える必要がある。このやりとりでは順番を待つことに注目するのではなく、「みんなとやりとりを楽しんでいる」「いっしょにしていることを楽しんでる」ということをとらえなくてはいけない。小さな場面でも深く見ることで大切である。

西乳児保育所

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎子どもの発達についてとらえようという意識が高まった。
（乳児期がとても大切な時期であることを再認識した。）
- ◎日々の保育の中で小さな気づきや発見を見逃さずに拾っていくことの大切さ。
- ◎子どもの声をよく聞こうとすること。
- ◎子ども達が遊びたい！・やってみたい！と感じる環境が重要であること。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

- ◎子どもの声を聞こうとする姿勢・耳を傾け、近くで関わるようになった。
- ◎必要以上の声かけをしないよう気をつけるようになった。
“待つこと”を心がけるようになってきている。
- ◎エピソード記録やドキュメンテーションを通して、子ども達をよく見るようになった。
子どもを見る視点も広がってきていると思う。
- ◎子どもの発達についてとらえ直すことが、保育の中で、子どもへの言葉のかけ方・かける言葉の中身にも変化をもたらしている。
- ◎保護者の方へ、“日頃の保育をもっと伝えていかなければいけない”と思うようになった。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎ドキュメンテーション・子ども達につけてほしい力・育てたい力について、保護者に、わかりやすく伝えていくことが難しい。
- ◎エピソード記録・まだまだ事実を客観的にとらえて記述することが難しい。
- ◎子どもの興味・発達にあわせた環境作り。
- ◎保育所で働いているすべての職員が、めざす保育について理解し、保育を変えていくこと。

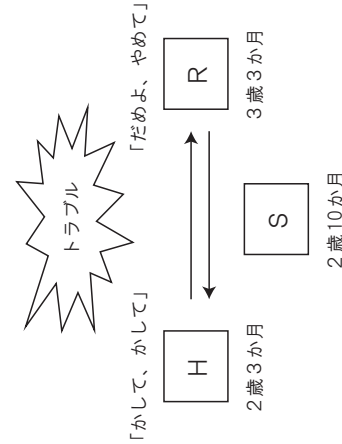
④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎保育課程を丁寧に学び直す。子どもの育ち・発達をしっかりとらえる力をつける。
- ◎乳児期の発達の特徴ともいえる“自分の物”“自分が大事”の時期を職員みなで、共通理解し、集団の中でも、子ども達が満足できるよう配慮したい。
- ◎子どもたち一人ひとりが、夢中になって遊べる環境づくりを工夫し、環境を整えていく。
- ◎保育士間の連携を深める。 ◎全ての職員の研修の機会をつくる。



(西乳児保育所)

平成25年 9月12日(木) 1,2歳児
タイトル名(絵本のトンネル)
<p>お友だちが大好きであるが、自分の思いと相手の思いがぐちゃぐちゃと手荒になりやすいS。今日は、そんなSのお友だちを思いやる場面をみる。</p> <p>食事後、パジャマに着替えているときのこと。早くに着替えが終わった子は、絵本や電車など好きなコーナーで遊んでいる。Sが着脱しているとき、Sも大好きな電車コーナーからRとHの声を聞いた。</p> <p>H 「かして〜!!!」</p> <p>R 「いや〜!!!だめよ〜!!!」</p> <p>みると、Rのもっているトンネルで2人でやりとりしている。</p> <p>「だめよ」といわれたHは、声を大きくしてRの持っているトンネルをひっぱった。</p> <p>H 「もう〜!!!かして!!!」</p> <p>R 「もう! やめて!!!」</p> <p>その様子をみていたS。絵本棚へと走った。そして、<u>絵本を手に取り、広げてレールをまたがせてHの前に立てる</u>。まるで、トンネルのようだ。</p> <p>H 「うわ〜!!!」</p> <p>Hは歓声をあげ、口角をあげ、その絵本トンネルの中を電車を走らせる。Sはその場に立ち、Hが電車を走らせる姿をじっとみている。</p> <p>そばにいたM保育士がSに声をかける。</p> <p>M保育士 「Sちゃん! 素敵なおトンネル! ありがとう!!!」</p> <p>Sは、M保育士の方を向くと、口角をあげまた絵本棚へ走る。そして、1冊手にとり、Hのそばにまた一つ絵本を広げて立て、トンネルをつくったのだった。</p> <p>普段は、自分の思いを通したい一面もあるS。でも、大きな声でやりとりするHとRの姿をみたSは、</p> <p>何で2人が困っているのか・どうしたら解決するのかと考え、大好きなお友だち同士を仲載しようとしたのだろう。</p> <p>Sの絵本を使つてのアイディア、それを認めてほめてくれたM保育士。2人ともすごい。Sは、大好きなお友だちとこーややって毎日過ごす中で、相手の立場にたつて、思いをよせる経験もこれからたくさん重ねていくことだろう。</p> <p>そんなSをそばで応援したいと思う。</p>
子どもの気付き、育ち
<ul style="list-style-type: none"> ・お友だちが何で困っているのか、どうしたら解決するのか考え、行った。 ・お友だちの立場にたち、相手の思いをわかろうとした。



H: 年齢的にただ欲しい。
SとRは人のものと自分のものの区別ができています。
S: 小さい子を助けにいった。工夫した。

R: 年齢的に「ぼくのだからダメ」という言葉出てきてもいい。言い方をRに伝える。

家での生活体験で模倣して応用させている⇒子どもがどうという環境で暮らすか。人生の経験を応用して使っていけること⇒様々な人と出会ったり、いろいろな場面を経験させる。
※良い体験をしている子どもはいろいろな場面で応用してひろげることができる。

「素敵なおトンネル」は2歳児にわかりづらい。
「持つてきてくれたんだね」と行動を言語化する。

その後のRへのフォローは?
H, Rのトンネルがほしかった気持ち、Sの絵本でトンネルを作った思い、Rのケアを通訳する。「Sちゃんに助けてもらったね。Hちゃんもほしかったんだね。」3人を保育士がコーディネートすることも大事。

< 大方先生の講評 >

- ・エピソードを他のクラスの子どもたちにも伝えていくことでみんなでも体現していく。そのエピソードの当事者といっしょに子どもにも話してもらってもよい。
- ・今回のエピソードの場合、「でも、絵本だから大切に扱わないと破れてしまう」と方向性も伝えていく。
- ・意図が少なすぎるので、意図していろいろな場面を設定する必要がある。生活・遊びがすべて人の体験となる。1の体験を10の体験とするためにも保育は重要である。
- ・意味をもったトラブルはよいが、欲求不満のトラブルはよくない。この子は何を求めているのか? を考える。
- ・貸し借りはまだ難しい。おもちゃの数は十分か、一人ひとりが安心して、自分のおもちゃとして満足して遊べる環境を整える。

大方先生コメント



プロジェクト型保育

(指導講師：神戸大学大学院 准教授 北野幸子 先生)

東山保育園

①学んだこと (今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど)

- ◎子どもの発達をより深く学んでいくことの大切さを感じた。
- ◎子どもの発達に必要なあそびや生活経験を考えることの重要性。
- ◎ドキュメンテーションの書き方の工夫として、保護者に伝えることの難しさ・どうしたら伝わるか・教育的なエッセンスを書きこむことが必要であること。

②保育の成果 (保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど)

- ◎保護者の意識の変化を感じる。
- ◎与えられたものでなく自分で調べたり比べたり探索する力がつき、目に見えて子どもの成長や興味を感じられた。

③課題 (研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと)

- ◎子どもが主体となる活動ができているか。
- ◎子どもが今、興味・関心があること育とうとしていることとの環境設定をしていく。

④今後に向けて (③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど)

- ◎遊びたくなる環境作りをする。
- ◎保育の振り返りをする。
- ◎子どもの発見、気づきを逃さないようアンテナをはる。





ルンビニ保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎ドキュメンテーションを通して日々の保育内容を、保護者に解りやすく、教育的な観点も添えて伝えていくことの大切さを学んだ。
- ◎子ども主体の活動の大切さ、子どもの発見や気づきを保育士が、受け止め、その気づきが保育内容に生かせ、柔軟に対応できる保育現場が必要であると感じた。
- ◎今までの保育を振り返り、その場だけで終わってしまう保育内容が多かったが、プロジェクト保育を進めていく中で「次につながる保育」を考え、取り組んでいくことの大切さを感じた。
- ◎日々の保育のあり方を見つめ直し、子ども達のより豊かな発達を促し、見守る中で、学び・発見・課題等が常に話し合える職員間でありたいと感じた。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

- ◎子どもの活動の様子、発する言葉など、以前よりも観察するようになった。
- ◎子どもが発した言葉を共感する事により、会話が広がり、そこから発想が膨らみ子ども達の笑顔に満ちた表情を見ることが出来た。
- ◎子どもの活動の様子や、発した言葉を職員間で報告し合うことで、子どもの姿を共有できた。
- ◎写真を撮り、その一場面が残ることにより、細かい子どもの手足の動きや表情、保育士も見落としていた子どもの姿を発見できた。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎保育を振り返り、保育士中心の保育が多く、環境も整え過ぎていたのではと感じる。子どもの思いを取り入れ、子どもが中心となって進めていく保育の見直し。
- ◎取り組みたいと思う活動も、子どもの発達の差や人数、保育士の数、環境構成（空間の工夫の難しさ、準備する時間、人的余裕）の難しさを感じた。
- ◎職員同士が、話し合える場所・時間の余裕がない。
- ◎子どもの姿は一瞬であり、写真に納める難しさがある。
- ◎子どもと一緒に活動を楽しんでいると記録をとることが難しくなる。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎職員間の連携を大切にし、子どもの成長や発達を確認し合い共通認識していきたい。
- ◎各年齢の発達段階の把握と共に、子ども達がどのように育ってほしいかを明確にし、あそびが広がる環境構成の工夫をしていきたい。

おいしく食べて
大きくなあれ

《0歳児・たんぽぽぐみ》
H26.1月～2月の様子。

ねらい

- ・楽しい雰囲気の中で食事をし、食べることの喜びを感じる
- ・個々の発達に応じて手づかみやフォークを使い自分で食べようとする

毎日の食事の中で「食べることの喜び」感じてほしい。そんな思いからできるだけ互いの食べる姿や表情が見える空間作りを心がけています。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。



「おはなすの〜」と声を出して食べ物を口に運ぶ様子が見られます。

「おいしいね。」と笑顔で喜びをかけても、自分で食べられるようになってきた子ども達は、皆、黙々とお皿を向き合っています。それだけ「食べる」という行為に子ども達は一注集中なのでなおと感じます。自分で食べる。その瞬間とびのきの笑顔を見せてくれるのです。

「友達の間を見て、同じ食事と一緒に食べる。この楽しい食事は自分もしたい。」「私も自分で食べられるよ。」子ども達一人一人の中に、ある食欲を引き出してくれている。そんな風に思っています。日々、食べられる物も増え、自分でできることも増えている「たんぽぽぐみ」の子ども達です。



中保育所

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎子どもが自分で考える前に、手を出したり、言葉をかけたりしないように、子ども一人ひとりの発達や、行動の背景を考えて能動的に見守ったり、援助したりする事が、子ども自ら気づき多くの学びにつながる事がわかった。
- ◎子どもが自らやりたいと思って選んだ活動を、友だちや保育士と一緒に、考えを出しあったり、試したりする中で、活動内容が深まり、子ども達の中で学びを共有出来ることがわかった。
- ◎子どもの気づきや発見を友達に伝え、受けとめえもらう事で自信につながっている事がわかった。
- ◎その時々の子どもの興味・関心をしっかり把握し、その興味・関心が深まるような環境を構成する必要性を学んだ。またその中で、全て準備されていたり、整いすぎていたりする環境が子どもを育てるのではない事にも気づけた。
- ◎保育記録やドキュメンテーションに、子どもが主体的に活動した部分や子どもの育ちを書く事の大切さを学び、その記録から保育を振り返れる事がわかってきた。
- ◎保護者にドキュメンテーション、おたより、アンケートなどを通して、子どもの活動の中で育てている力や過程を伝えていくことが保護者とともに子育てしていくために大変大切で保育内容に興味をもってもらうためにとても重要だということがわかった。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

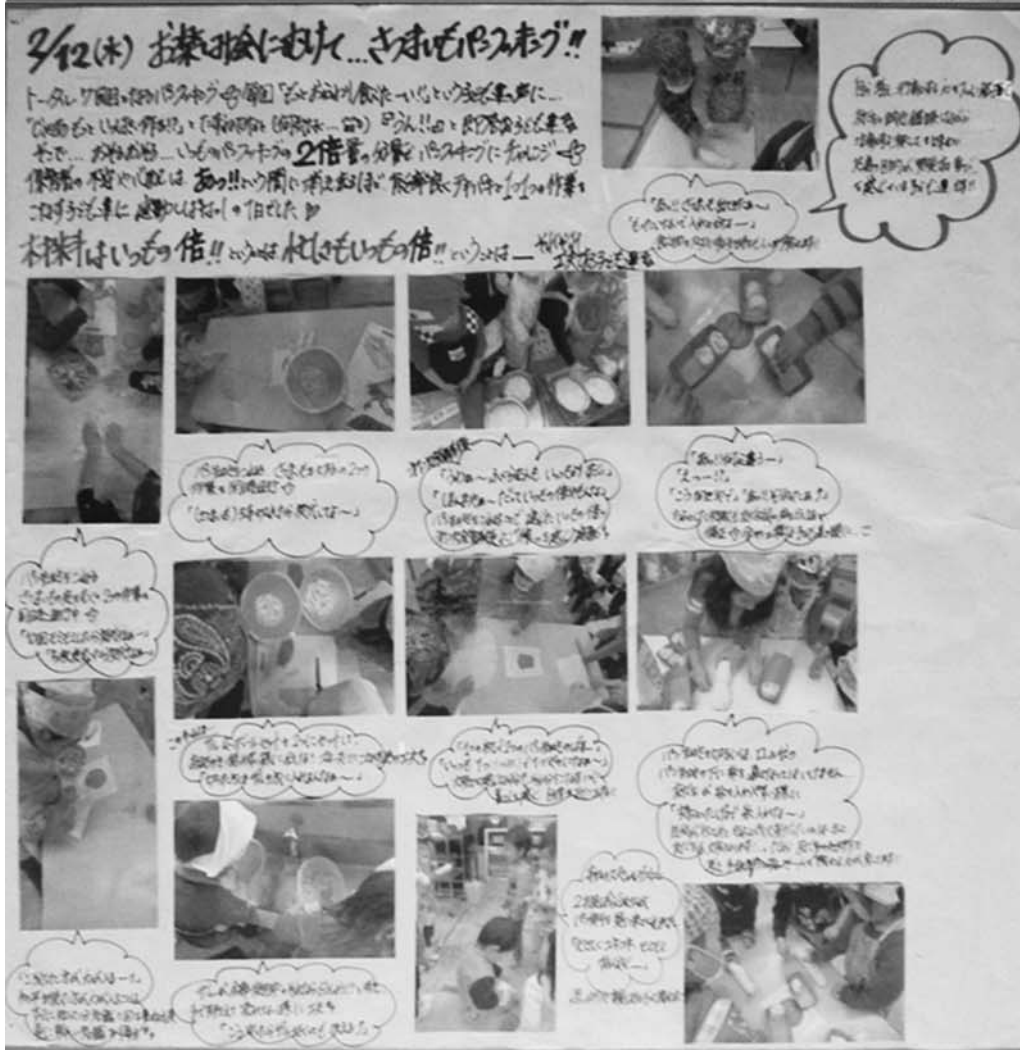
- ◎スタートしたばかりでまだまだ不十分であるが、保育士主導ではなく、子どもの行動や気持ちに寄り添うと、子ども達が積極的になり、子どもの興味・関心がより深く見えてきて、子どもの持っている力の素晴らしさが感じられるようになった。
- ◎保育の中で結果や答えを求めるのではなく、子ども達の行動や発言をじっくりと待つようになった事で、子ども同士につながりが深まっている姿が多く見られるようになった。
- ◎活動した事に重きをおくのではなく、それまでの経過、活動した時に子ども達がつけた力(年齢にふさわしい発達)や育ちを理解しようとするようになった。
- ◎子どもの主体的な考えや発想を保育(のトピック)に生かし、展開しようと努力するようになった。
- ◎子どもの考えを引き出すような言葉かけを工夫するようになった。
- ◎ドキュメンテーションを書く事で、保育を振り返るきっかけになった。また、保護者も興味を持って見られ、保育材料を提供して下さったり、保育内容を理解して下さる方も出てきた。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎子ども一人ひとりの発達や行動背景を理解したうえで、今その子どもにどういう関わりや環境を支援していけばよいのかを職員が共通理解すること。
- ◎子どもの主体性をどうしたらひきだせるか。
- ◎発達の連続性を押さえた各領域のバランスが取れた保育内容にしていく。
- ◎主体性を育む保育についての更なる保護者理解。
- ◎職員のプロジェクト保育への理解や意欲への温度差。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎クラスの枠をこえて、お互いの保育や記録を見合うなど、自分の保育を客観視し、お互いが学んでいけるような園内研修を工夫し充実させたい。
- ◎職員の健康管理を含め働く意欲を維持するために会議や書類の工夫を考慮し子どもの主体性ととも保育者の主体性も育めるような園環境を作る。
- ◎子どもの発達や育ち、行事のあり方を保護者に発信していき、保護者ととも子育てしていけるようにする。





保小連携・記録

(指導講師：鳴門教育大学大学院 教授 木下光二 先生)

岡田保育園

①学んだこと (今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど)

保小連携公開保育時(平成26年2月10日)に、木下教授より、保育のあり方のキーワード「集める保育か集まる保育か」どう？考える！と言われた。本園は2年前(保小連携モデル事業)にもご指導頂いているが、その時の課題等が園全体で共有理解できて居らず、引きずっていることに気がついた。

「心はかけても、手をかけ過ぎない」とも言われており(2年前、手づくり味噌でクッキング)、丁寧に子どもを観よう、配慮していこうと行ってきた保育(言動・行為)が、「手のかけ過ぎ」「準備のし過ぎ」になってしまっている。

連携接続の前に、保育のあり方を見直し考える機会となった。

②保育の成果 (保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど)

保育内容・子どもの姿等を保護者に伝えるとき、園・クラスだより等、文字が中心であったが、写真や子どものつぶやき等を、保育室廊下に掲示しはじめた。(12月より)

写真があることで、日常の保育の様子、状況が判りやすい様子である。親子で掲示板を繰り返し見て、会話も弾んでいる。保育士も保育の中で『あっ、この写真いい。』と、保護者に伝えたい、掲示したいと思えるようになり、写真の撮り方が変わってきた。

③課題 (研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと)

「子どもたちの主体性を育む」と、文字にしてはいても、実際には保育士主導が中心で、あれこれ指示を出している。子どもたちに、考える、試す、気づかせる場面が少ない。余計なことに、手をかけ過ぎ(口出しし過ぎ)ていて、育ち・学びを繋げる必要な場面での指導(ことば、配慮、きっかけづくり)が出来ていない。

保育士同士や園全体で、課題検討や話し合い、共通認識をもちたいが、なかなか難しい。

④今後に向けて (③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど)

検討中



連携接続 生活科学習指導案③ 公開保育授業

- 指導者 小島 雅子
1年担任 小島 雅子
年長担任 佐藤奈美
- 1 日時 平成26年2月10日(月) 10:40~12:00
- 2 場所 社会福祉法人岡田福祉会岡田保育園
- 3 学年 第一学年 (男子11名・女子2名 計13名)
年長見きりん組(男子6名・女子7名 計13名)
- 4 単元名 「チャレンジ!段ボールバスづくり」
- 5 ねらい ○バスづくりを通して、関わり・共同する力を育む。
○考えたり、イメージを出し合い、進んでバスづくりに取り組む。
- 6 目標 * 互いの思いを出し合い、進んでバスづくりに取り組む。
* 遊べる段ボールバスをイメージして、できあがりを楽しみにする。
- 7 本時の目標 * 遊べる段ボールバスをイメージして、関わり・共同する力を育む。
1年生: 友達やきりん組児と力を合わせて、作り・創ることを楽しむ。
年長児: できあがりを楽しみにし、一緒に作り上げていく喜びを味わう。
- 8 本時の展開 保=年長児 小=1年生

主な活動	予想される幼児・児童の反応	指導上の留意点
<p>・ はじめの挨拶</p> <p>・ 今日の目標と活動の流れを確かめる。</p>	<p>保、小「今日も宜しくお願いします。楽しみだな」</p> <p>保、小「早く続きがしたい」</p> <p>保「～今日は車体がつくりたい」</p> <p>小「椅子作った。けどもつくる」</p> <p>小「僕ら、前とガワつかった。今日はドア、つくる」</p> <p>保「つよくする」「かたくする」</p> <p>小「段ボールをかさねる」「ガムテープをきちんとつける」</p> <p>保「そうやん、未だついとらん所がある」</p> <p>↓</p> <p>段ボールを運び、つくり始める。保、小「さあ、しよう」「こんなんがあった」「これもつかえそう」</p>	<p>* 前回したことを思い出させたり、今日はどんな作業をしたのか確認する。本時の活動に見通しを持たせる。(終わりの時間を伝える。11時45分=まとめ、12時=終了)</p> <p>* みんなでつかう為には今の状態でよいのか考え、気づかせる。</p> <p>* 基本、ペアで行動する。作りたい作業を相談させ、取り組みを見守る。</p> <p>* 様子をみながら、1年生の意見を引き出す。(役割分担や交代の仕方、用具の使い方等)</p> <p>* 子どもにさせ、手出し、口出しは控える。</p>
<p>・ グループに分かれ、作り始める。</p>	<p>保「わあ、ガムテープ外れてる」</p> <p>小「ぐらぐらやん、もつと、つけない」</p> <p>保「ついとらん所があるし…」</p>	<p>* 子どもの意見やアイデアを受け止め「そう考えたんだね、試してみて」と、</p>

<p>小「2枚重ねたらいいやん」「そうやん、これつけよ」</p> <p>小「ガムテープ、なんではがれるんやろ」</p> <p>保「おさえんと」「わからん」「縦にはろう…横にはろう」</p> <p>↓</p> <p>小「だんだんできてきたぞ」</p> <p>保「椅子もこれだけ出来たよ」</p> <p>↓ 「ちよっと並べてみよう」</p> <p>保「ちよっと、乗ってみたいな」</p> <p>小「運転席にはハンドルがあるよ」「ワイパーがあるよ」「ブレーキつける!」「タイヤも」</p> <p>「どうしたらいいかなあ」</p> <p>保「もう少しで、できるよ」</p> <p>小「ぐらぐらせん、前より丈夫だよ」</p> <p>保「はやく、みんなでつかいたいな」</p> <p>「まだ、できあがっていないよ」</p> <p>「小さい子も使わせてあげようよ」</p>	<p>関わりや作業が展開していくように見守る。さりげなく、気づいたことを周りに紹介し、大きさの変化、丈夫になる方法等、目の前の子どもものしていることを認めていく。</p> <p>* 集中や意欲が途切れた子には、その子がやりたい自分の役割を意識させ、誘いかけを行う。</p> <p>* イメージしているバスに近づいているのか、更に必要な材料等あるのか、子どもの思いを受け止めながら、全体を観察する。</p> <p>* 役割分担の様子や関わり longitudinal の良さが見られたら紹介する。</p>	
<p>ま</p> <p>と</p> <p>め</p> <p>・ 本時の振り返りをする。ながら、次回へ繋げる。</p> <p>・ おわりの挨拶</p>	<p>* 完成や出来具合を喜び、次の楽しみに繋げる。</p> <p>* 保小の力を合わせ活動ができた(作れた)具体的な内容を表現させる。</p> <p>* ここまで出来たことを喜び評価する。次の遊び、活動に展開、創造が出来るように支援する。</p> <p>・ 次の活動に意欲を持たせる。</p>	
	<p>片付けを行う</p>	



八雲保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

◎連携も普段の保育も同じ。日頃こそが大事と実感し過ごしている。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

「夢中になって遊び込む」子どもの姿を職員全員が思い描き、環境作りに努めている。
「子ども時間」の中で、興味を持ったことから取りくめる形で設定保育をとり入れている。
それにより、個々の思いの読みとりができる。
それを記録できる。

記録はその中のひとつを、月のクラスだよりで保護者に向け発信している。その段階で、職員間で書き方や内容について研修する機会を持つ事で、刺激し合っている。

そうして発信している事により、保護者からの相談事や懇談会の際、具体的な遊びの姿を伝えると共に、そこに見られる育ち（考察）についても、話す事ができる。

又、この形で設定保育を行うと、子どもの発想のすばらしさを実感する。

でき上がった作品は、保育士のイメージをはるかに超えている。この姿を見るにつけ、昔の保育士指導型保育の空しさを痛感する日々である。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

発表会においても、こちらの思いを優先せず問いかけてみながら、一緒に作り上げる感覚を少しずつ試してみようという方向に意識が変わりつつあるが、今後どんな風に子ども達と共に作り上げていくかが課題である。

「対象とのかかわり」「思い入れ」などという木下先生の言葉を思い出しながら、子どもと一緒に小道具作りをしたり、保護者と子どもが相談しながら、自分の役に合い、又、自分のイメージに合う物を準備し、持ってきてもらう事も呼びかけてみた。そうした一連の活動を通して、子ども達が題材に対するイメージを色濃く深め、小道具や衣装にたいしても思い入れを持ち、やりとりしたり笑顔を見せる様子を、何より私達自身が今までにない手応えを感じ、作品に対する思い入れを強めている。

これまで疑問を持たずにやっていた色々な事に、むしろ自信を持ってやっていた色々な事に、見直し、進化するきっかけを頂き感謝です。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

私達八雲保育園は、これからも子どもたちの為に良いと思った事は躊躇なく試し、足りない所を補っていけるよう研修したいと考えています。

八雲保育園・由良川小学校つながり活動（生活科）案

指導者 1年担任 岩田 佳奈
年長担任 岡野 桂子

- 1 日時 平成25年 月 日 () 9:30～ 10:50
- 2 場所 八雲保育園 ホール
- 3 学年 由良川小学校第1学年 (男子6名、女子5名 計 11名)
八雲保育園年長児 (男子5名、女子11名 計 16名)
- 4 単元名 くさきも わたしも ころもがえ ～どんぐりの へんしん～
- 5 単元のねらい (全20時間扱い)

本単元は、「秋みつけ」や「秋の自然を使った遊び」等の体験を通し、身近な秋に親しみ季節の変化に気付くことを主なねらいとしている。中でも「どんぐり」は子どもたちにとって、とても身近な秋の自然である。敷き詰めた絨毯のようにどんぐりが落ちる保育園横の大きなコナラの木、神崎老人会の方とどんぐり拾いをする神崎のカシワの木など、毎年どんぐり拾いやどんぐりを使った遊びを経験している子どもたちである。

今年は、「変身が上手などんぐり」として、「今までと違った角度から素材を取り扱ってみよう」「科学的思考力につながる活動にしたい」という指導者の願いのもと、新たに「染め」と「どんぐりクッキー作り」を単元計画の中に盛り込んでみた。この「染め」の活動はすでに5歳児は経験済みであり、未経験の1年生との逆転現象がかかわりの中でどのように見られるのかも楽しみなところである。

尚、単元のねらいは次の通りである。

- 秋になった自然の中を散歩したり、楽しく遊んだりしながら、季節の変化に気付くことができる。
- 秋の様子について、いろいろな方法で表現したり、秋の素材を利用して遊ぶものを作ったりすることができる。
- きょうだいとかかわる活動を通して、かかわる楽しさを感じ、進んで交流しようとする思いを持つことができるようにする。

6 本時の目標

- 1年生 ①どんぐりを使う活動を通し、素材の感触や色、形、におい、熱した時の変化など、どんぐりに関する新たな気付きを楽しむことができる。
- 年長児 ①どんぐりの感触や色、形、におい、熱した時の発見などを楽しむことができる。

7 本時の展開 (本時 16 / 20時)

	主な活動	予想される幼児・児童の反応	◆共通した声かけや仲立ち
導入 10分	1 はじめのあいさつ	<p>どんぐりは木づちでたたいたら、中から白いものが出てきたよ。</p> <p>白い方と皮の方、どっちを染めにつかうのかなあ。</p>	<p>◆共通した声かけや仲立ち</p> <p>◆本時の活動の前に、年長児が本活動で使うどんぐりを木づちでつぶし、皮と実に分けておく。1年生は到着次第、つぶし活動に合流させる。</p> <p>◆気付きの共有、体験で得たものを交流。</p> <p>◆視覚支援</p> <p>◆染めの順序を貼り出し、いつでも確認できるようにしておく</p>
	2 「どんぐりはかせ」の話を聞く。から、かくと、子葉、でんぶん、大昔の食べ物	<p>どんぐりはどんな色になるのかな。</p> <p>栄養がいっぱいつまっているのかな。</p>	
	3 今日の目当てと活動の流れを確かめる。	<p>みんなでドングリやさんのはた(のぼり)を作ろう。</p>	
展開 60分	4 どんぐりを使って染める。	<p>こぼしたらもう一度はかり直そう。</p> <p>水は、みんなで数えながら入れようよ。10杯だよ。</p> <p>鍋は、熱いから気をつけてね。</p> <p>どんな色に染まるのかな。楽しみだね。</p> <p>しばったところは白くなるんだよ。たまねぎの時は、黄色に白い丸が出現したんだ。</p> <p>どんな味のおかしになるのかな。</p> <p>だんだん粒が小さくなってきたよ。</p>	<p>◆活動の保障</p> <p>◆雰囲気作り</p> <p>◆自らの五感を通してどんぐりの特性に気付かせる。</p> <p>◆気付きの共有、体験で得たものを共有</p> <p>◆色の変化・模様楽しさ・不思議さを味わえるようにする。</p> <p>◆安全に対する意識</p> <p>◆やけどなどのけがのないよう注意を払う。</p> <p>◆食物アレルギーに関する調査を行っておく。</p>
	・どんぐり、水、ミョウバンを計りとり鍋に入れる。	<p>はかり役を決めたらどうか。年長さんは、どんぐりを入れてくれる？</p> <p>ミョウバンは、まほうのこなだね。</p> <p>わたしたちのチームは一人10個ずつ模様を作ったよ。</p>	
	・布をぬらして鍋に入れて煮出す。(20分間)	<p>煮出しを待つ</p> <p>すりばちをおさえていてね。</p> <p>少ないから、もっとどんぐりつぶしてよ。</p> <p>大昔の人は石でつぶしたのかな。</p>	
※煮出しの間、どんぐりの実をつぶし、次の時間の準備をする。	<p>みんなが染めた布を洗って干す。</p>	<p>どんぐり色のはた(のぼり)が出来たよ！どんぐりのへんしんだ！</p>	
まとめ 10分	5 はた(のぼり)の布を見せ合う。	<p>もっと模様をつけたらよかったな。でも、どんぐりの色にそっくりだ。</p>	<p>◆活動機会の保障</p> <p>◆雰囲気作り</p> <p>◆各チームの仕上がりを認めるよう声をかけたり、きょうだい毎のかかわりのよさをねうち付けたりする。</p>
	6 今日の振り返りをする。	<p>どんぐりでそめたら、どんぐりの色に変身して不思議でした。</p>	
	7 おわりのあいさつ	<p>水をはかる時、むずかしかったです。</p>	

8 評価

- 1年生：話し合ったり役割を分担したりしながら、きょうだいと染物をする楽しさを共に味わうことができる。
- 年長児：どんぐりの感触や色、形、におい、熱した時の発見などを楽しむことができる。



やまもも保育園

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

0歳児から大事にしている事は、しっかり食べ、しっかり寝て、しっかり遊ぶ。その中でリズムあそびや自然の中で五感を使ってあそぶことを大事にしている。
それを保護者や地域、周りの人たちへ伝えていかなくてはいけないと実感した。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

各クラスがエピソード記録を書くようになり、子どもの“つぶやき”に耳を傾けるようになった。
また記録から子どもの成長を振り返ったり、目につかない子に目を向けるようになった。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

記録をもとに各クラスでは話し合いが行われているが、園全体のものとして深められているのかというのが課題

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

親向けの展示を頻繁に行うようにし、その際に全体で取りくみ、その都度、話し合いができたらと思う。



年月日	エピソード記録
5/27	<p>園庭で遊んでいた時のこと。あまり普段大きな声を出さないKくんが「あ!! あ!!」と大きな声で叫んでいた。何かなあと思って見ると、大きな口をあけて上を指さすKくん。見ると、園庭に出してあるこいのぼりが強風ではげしく泳いでいた。驚き、不思議そうにして、しばらくじーっと見つめていた。下から見ると、とても迫力があり、子どもにとってはすごいことなんだなあと思い、一緒に見ていた。</p>
	 



東保育所

①学んだこと（今年度研修を通じて学んだことや感じたことなど）

- ◎保育のねらい（どう育てほしい、何を学んでほしい）を明確にして、活動そのものや、できた、できなかった、の結果ではなく、プロセスが大切であることに気づいた。
- ◎保小連携を行う上で、日々の保育の積み重ねが重要であることを学んだ。
- ◎発達を把握する→ねらいをもつ→しかける→記録する→振り返る・・・ことの大切さを学んだ。

②保育の成果（保育士の意識や子どもの見方、関わり方、保育内容など、日々の保育の中で変わってきたと感じたことなど）

- ◎保育士の画一的な指導から、子ども主体を意識する中で、環境を整え、保育士の言葉掛けや、見守りなどかかわり方に変化がみられた。
- ◎保育士が、主体性を意識することで、“こうでなければならない”から“これでいい”という思いにかわり、子ども自身が考え工夫し、自分で活動をすすめていく中で、自己発揮、自己決定、自己肯定感につながってきている。

③課題（研修を受ける中で、日々の保育や環境など、課題と感じたこと）

- ◎保育士が子どもの興味や関心からつけたい力を見極め、子どもが思わず遊びたくなるような意図的に仕掛ける環境づくりをする。
- ◎発達の筋道をしっかり捉え、ねらいを意図して、育てたい力を、全職員周知して保育をする。
- ◎焦点を絞って記録し、振り返りを共有し、次の保育につなげる。

④今後に向けて（③で気づいた課題について、今後どのように取り組み、どう改善していくかなど）

- ◎所内研修を充実させ、全職員で共有する。
- ◎保護者にも、活動重視でなくその活動にどんな学びがあったか、結果でなくプロセスを大事にすることを、伝えていく。



保小連携合同保育・授業 (H25.6.21) 省察

No.	項目	木下教習コメント	実施園の思い・当日回答	省察・課題
	事前の活動	今回の活動をするまでにどんな活動をしてきましたか？分かる資料があるといひですね。	顔合わせで一度小学生と会っています。そこでは氷鬼をペアで手をつないでしました。	保小連携の活動は、その日だけの特別な活動ではなく、遊びや日々の保育の中で、子ども達が興味を持って経験していることをベースに行うべきである。
	年間目標・ねらい	保小連携をするに当たり、どういった子どもに育ってほしいのか？年間の目標やねらいはありますか？	◎1年生になった時に一番下だから手伝ってもらったり、助けてもらうのが当たり前ではなく、自己発揮できることでは自分を発表できる子。 ◎小学校に行つた時に安心して学校になじめ、期待感や興味がたくさん芽生える工夫をしよう。	また、このように育ってほしいという保育士のねらいや日々の保育の中で、遊びを通して経験できるようにしかけをしていくべき。
①	単元名・単元のねらい	2つの関わりがいちちよくわかりません。	船づくりをするために、無理にねらいを設定してしまつたこと 船づくりがメインではないのに、計画を進める中で、つづることが「ねらい」にすり替わつてしまつた。	船づくりがメインではないのに、計画を進める中で、つづることが「ねらい」にすり替わつてしまつた。
②	船づくり	なぜ1人ずつ船を作つたのか。2人で作つた方がより関わりが持てたのでは。	2人で1つの船を作ることも最初案では考えていたが途中で変更した。 お互いが満足いく物が作れて、さらに関わりも持てるようにこのような形の活動にした。	できたかどうかではなく、本来の「ねらい」にあるように、どうすればより関われるのか考える必要があった。
③	導入	様々な船の絵はいい船の模型1つを出す方がよほど印象的だつたように思う。	いろいろな船を見せることで1つの船にとらわれずイメージを膨らませてもらつたこと考えた。	上手な船を作らせるための導入になつてしまつていて、船づくりは過程であり、単元のねらいが達成できていればうまく作れなくても良い。単元のねらいに沿つた導入を考えるべき。
④	展開	名前はやはり小学生に書いてもらう必要はないか？	小学生に見せ場がほしいという小学校の意見により、書いてもらうこととなつた。	「こんな船を作つてほしい」ではなく「こんな力をつけてほしい」に 小学校側の「1年生が保育所の子の面倒を見てあげる」という考えを伝えるだけの関係性でいいなかつた。子どもの姿を同じ目線で捉えられるような関係性の構築が必要。 教師との交流期間が短い場合で、どうしても「見せ場」と言われた場合でも、名前を書いてもいいことではなく、他を提案すべき(調べたことこの発表等)。 まともな単元のねらいを子ども達にわかりやすく提示するためには、「育てたい力」「気づいてほしい学びや発見」等のねらいがあつて、それに合った導入→活動→振り返りの流れを達成できなかった振り返りのためとまとめ。上手にできたかではなく、ねらいに合った育ちや学び・発見の姿を伝えるべき。
⑤	まとめ	船が上手にできたかを伝えてしまつた。		子どもを信頼してまかせざるべきであつた。また信じてまかせられるよう日々の保育の中で、こころにつなげる活動をしていくことが大事。
⑥	その他	保育士が準備をしすぎていたのでは。	当初は準備し過ぎないよう気をつけようと思つてはいたが、準備していないことが不安で、やりすぎてしまつていた。	浮く、沈むがねらいにあつたのなら、プールのいきななかつた。

保小連携活動指導案

東保育所・新舞鶴小学校つながり活動(生活科)案		指導者 1年担任 高寺 智子 年長担任 長谷川 士	
1 日時	2 場所	3 学年	4 単元名
平成25年6月21日(金)	東保育所 遊戯室	1年生 男児18名 女児14名 年長 男児11名 女児20名	『わたしとさんぽ 春から夏へ』 ～保育所との交流から物作りへ～
5	単元のねらい	◎地域や施設の人々と触れ合いコミュニケーションをはかる ◎友達と関わりながら遊ぶ楽しさを体験する ◎本時の目標	
6	小・友達に教えたり教えられたりしながら、お互いに協力し合つて活動ができるようにする 保・小学生のお兄さん、お姉さん意識しながら楽しく船作りをする		
7	本時の活動	<p>①</p> <p>指導上の留意点及び個別支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体の進行は保育士が行う ペア探しゲームをする中で、ペアを意識しスタートの雰囲気盛り上げる ペアの子と相談し合い兄弟船を作ることを知らせる 船長登場！様々な船の絵を見せていく作る時のイメージが広がるように 話が進まないペアには仲立ちをする 失敗や気が付きが次につながらるように言葉を投げかける 助け合えるように促す 学習の成果が発揮できるような場とする(保育所の子はあこがれの気持ちを持つ) お互いの船に関心を持ち、それぞれの良さや、個性に気付く 	<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙芝居 廃材 プール タオル 机18 いす10
10:45	6	完成した船をステージに並べる	
まとめ	7	先生の話を聞く	
10:45	8	みんなで歌を歌う	
11:00	9	終わりのあいさつ	
		<p><船作りに使用する廃材のリスト></p> <ul style="list-style-type: none"> 牛乳パック 発泡トレイ ペットボトル かまぼこ板 段ボール 空き缶 空き箱 粘土 <p><船作りに使用する道具></p> <ul style="list-style-type: none"> ゴムテープ ビニールテープ セロテープ ボンド のり スズランテープ 毛糸 画用紙 <p><船作りに使用する道具></p> <ul style="list-style-type: none"> えんぴつ類 モールなど ハサミ マジック 目打ち ホッチキス 	